

Close Up

クローズアップ 交通教育センター

バイクのスクールに特化したスペシャルイベント

2月24日、鈴鹿サーキット交通教育センターが「STEC Bike Only Day」を開催。これは、「Honda モーターサイクリスト スクール（以下、HMS）」や「親子でバイクを楽しむ会（以下、親子バイク）」といったバイクのスクールに特化したスペシャルイベントである。HMSは、個人のお客様に楽しくバイクの安全運転を身につけていただくことを目的としたスクール。お客様のスキルやニーズに合わせて、様々なコースが用意されている。親子バイクは、バイクに乗る体験を通じて親子の絆を深めてもらうことを目的としている。この日は、お客様72名が参加。さらに、インターネットを通じてバイクで走行中の動画を配信しているモトブロガー3組をゲストに迎え、お客様と一緒にスクールを受講した。

HMSでは初級タウンライドチャレンジ、中級ツーリングライドチャレンジ、中級スポーツライドチャレンジの3つのコースに分かれ、より安全な運転をめざすための練習に取り組む。初級タウンライドチャレンジはHMSの入門コースということから、受講者8名のうち6名がHMSに初参加。実技の前に、インストラクターが日常点検のポイントやバイクの取り回しのコツなどについて丁寧に説明した。

実技の最初は発進・停止を繰り返し、まっすぐ走って安定して止まる技術を身につける。次は周囲の流れに乗るといふ、現実の交通場面を想定したレッスン。受講者が一人ずつ、右後方から近づいてくる他の受講者の車列に安全に合流するというものだ。最後のレッスンはパイロンスラローム。コーナリング時の運転姿勢の基本となるリーンウィズ（バイクの傾きとライダーの上半身が同じ角度になる姿勢）、リーンイン（バイクの傾きに対し、上半身がイン側に入った姿勢）、リーンアウト（バイクの傾きに対し、上半身をアウト側

にずらした姿勢）の3つについてインストラクターが模範を示しながら、それぞれの特徴や使う場面を解説。これらを意識して、受講者は練習した。

一方、親子バイクでは保護者が先生となり、ブレーキングやコーナリングなどの課題を通じて、バイクの操作方法とともに、交通ルールやマナーの大切さを伝えた。最後は交通教育センターのコースを離れて、インストラクター先導のもと走行。親子でツーリング気分を堪能した。

モトブロガーの影響を受けて半年前に二輪免許を取得したという男性（23歳）は「HMSに興味はありましたが、なかなか参加できずにいました。今回、憧れのモトブロガーの方々が参加すると知り、受講したというわけです。ブレーキングやパイロンスラロームを通じて、普段の街乗りで活かせる安全運転技術が学べ、モトブロガーの方々と交流できたので想像以上に楽しい時間を過ごせました」と満足そうな表情を浮かべた。小学生の時に親子バイクを受講していたという女性（21歳）は「18歳の時に二輪免許を取得したのですが、ずっとバイクに乗る機会がなかったのでHMSを受講することにしました。パイロンスラロームの時に、インストラクターが後方から私の運転を観察して、細かくアドバイスをしてもらえたことがうれしかったです。これからバイクを買って、運転を楽しもうと思います」という。

8歳の男子と来場した父親は「ホームページで今回のイベントを知り、1年ぶりに受講しました。親子バイクは安全意識を小さい頃から身につけられるスクールだと感じ、継続して参加しています。バイクを運転する人の気持ちを理解することは、子どもが道路を歩いている時や自転車に乗っている時の安全行動に活かされると思います」と語った。



「STEC Bike Only Day」にはお客様72名が参加し、インストラクターやゲストのモトブロガーと交流を深めた



発進・停止を繰り返すことで、安定して止まる技術を身につける



自分に近づいてくる車列に安全に合流するというレッスンを身につける



インストラクターが受講者一人ひとりの運転を観察してアドバイス



運転姿勢やライン取りの模範を示すインストラクター



親子バイクでは保護者が先生となる



バイクに乗る体験を親子で共有

Safety Info.

インフォメーション

三重県が「高校生の交通安全教育検討委員会」を開催

若者の二輪車事故の急増や、暴走族の問題などから1982年全国高等学校PTA連合会（以下、全高P連）がバイクの「三ない運動（免許を取らない・バイクを買わない・バイクに乗らない）」を推進することを決議して全国に展開されてきたが、2017年に開催された全高P連の全国大会において「三ない運動」の全国展開を取りやめた。以降、群馬県では高校生が二輪免許の取



3月22日に開催された第4回高校生の交通安全教育検討委員会

得や乗車が可能となる新たな交通安全条例を制定。埼玉県では「高校生の自動二輪等の交通安全に関する検討委員会」が開催され、2019年4月より新指導要項で高校生の二輪免許取得と乗車が認められるなど大きく変化している。群馬県も埼玉県も免許取得・乗車を認めると同時に、乗せて教育する安全運転教育にも力を入れ、高校生が生涯にわたって悲惨な交通事故の当事者にならぬよう、交通社会の一員としての義務と責任、そして命の大切さを積極的に学ぶことのできる場を設けることにも取り組んでいる。

こうした中、2018年9月から三重県でも「高校生の交通安全教育検討委員会（以下、委員会）」を設置し、学識経験者、PTA関係者、学校関係者、二輪車安全教育関係者など11名が委員として参画し、①高校生の自転車運転に係る交通安全教育に関すること、②高校生の二輪車運転免許

取得に関すること、③卒業後に運転者となることを踏まえた交通安全教育に関することを論点として検討を重ねている。

三重県教育委員会事務局生徒指導課課長 山口香さんは検討委員会の設置の経緯について「三重県内では高校生の人口減少、自転車保有台数が増加している現状があります。委員会では直近の課題として高校生に対する自転車教育のあり方を議論する一方、成人年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえた高校生の二輪免許取得のあり方、交通安全教育の進め方について委員の皆さんに議論をいただけてきました」と話す。3月22日に開催された第4回の委員会では、三重県指定自動車教習所協会から自転車の安全教育プログラムが提案されたほか、自動車教習所と連携した自転車運転免許制度を導入した学校の取り組みなどが紹介され、自転車の交通安全教育の重要性が確認された。

二輪車については県内の公立高校では生徒の通学事情を考慮して免許取得を許可している学校がある一方、学校へ申請せずに免許を取得している生徒もいることから、「二輪車に関する安全教育を、必要な生徒に届けられていないことに大きな課題がある」という問題意識とともに、「二輪車免許取得解禁となれば、教育現場には

事故の増加や校則違反の増加といったマイナスのイメージが強い」とか「実際に二輪車免許を取得している高校生の人数や、生徒が無許可で免許を取得する背景を調査すべき」、また「三ない運動は事故防止の抑止力になっているが、入学説明会や三者面談など、保護者と生徒と一緒に安全教育を受けられるようにするべき」など、多様な意見が交わされた。

委員会委員長である山口さんは「自転車教育に関して方向性が固まりましたが、二輪車についての議論を深めるためには情報が不足しています。委員会で実態を把握するため生徒を対象としたアンケートの実施が決まったので、来年度はその結果を踏まえた上で実質的な議論ができることを期待しています」と語った。今後も本紙では委員会の動向を追いかけていく予定だ。



三重県教育委員会事務局生徒指導課課長（当時）山口香さん



大阪国際大学人間科学部教授山口直範さん